

私たちの想い

創業の志を忘れることなく、
「変化への対応」をとめないこと

1974年、現在のコンビニエンスストアの原型となる店舗が東京都江東区に誕生しました。当時は国内商業の近代化を図ろうとする国策と、大企業による大量生産・大量消費のムーブメントの中、日本は高度経済成長の真っただ中にありました。一方でモータリゼーションの進展とともに、郊外に大型店舗の出店が相次ぎ、昔ながらの中小小売店は衰退の一途をたどっていました。

最新設備の導入はもとより、仕入れや資金調達にも苦慮している小売店が多い中、商品調達と資金繰りだけでなく、マーケティング、物流システム、会計簿記サービスなどをパッケージにして中小小売店を支援することで、「小売店の近代化・活性化を図ることができたら、大型店との共存共栄ができる」、そんな発想からスタートしたのが、セブン-イレブンです。

それから今日に至るまで、お客様の求める価値の追求にそのすべてを注ぐことで、全国2万店を超える規模にまで成長することができました。おかげさまで、なくてはならないお店としての評価もいただけるようになりました。しかし、社会は今、「サステナブル（持続可能）」という新しい価値を求めて、いまだかつてない大きな転換期を迎えています。

私たちに求められているもの。それはまさに新しい時代における「変化への対応」です。お客様やセブン-イレブンに関わるすべての人だけでなく、地域社会や地球環境、そして未来世代にとっても、なくてはならない存在になること。今こそ、その決意と覚悟が求められていることを自覚して、加盟店と社会の持続可能な成長を支えてまいります。



セブン-イレブンの歩み

1974



日本初の「セブン-イレブン」誕生

東京都江東区の豊洲で代々営んでいた酒屋を改装し、「セブン-イレブン豊洲店」がオープン。日本で初めてのフランチャイズ方式によるコンビニエンスストアのチェーン展開を開始しました。

1976



流通業界の常識を破る 共同配送の実現

配送車両による環境負荷や荷受け作業の頻度が課題となる中、牛乳メーカー各社に共同配送のメリットを繰り返し働きかけ、異なるメーカーの商品を一度に運ぶ共同配送を実現しました。

1982



世界に先駆けて独自の POSシステムを導入

お客様のご要望に応えられる品揃えをするために、商品へのバーコード印字を進め、世界で初めてマーケティングにバーコードを利用する取り組みを開始しました。それ以降、POS(販売時点情報管理)データを活用する単品管理という手法を確立して、発注の精度を高めています。

1987



公共料金の支払いを 手軽に、便利に

共働き世帯の増加により、銀行が開いている時間に公共料金を支払うことが難しくなっていました。そこで、バーコード読み取りによる24時間支払い可能な公共料金収納代行サービスを日本で初めて開始しました。

2001



地域に欠かせないインフラへ

銀行の支店やATM拠点の減少など、金融サービスへの不便を感じるお客様のご要望にお応えし、ATM事業をメインとした「アイワイバンク銀行(現セブン銀行)」を設立。必要な時いつでも入出金や送金が可能なおサイフ代わりにしていただけるATMとしてご利用いただいています。

2019



全都道府県に出店

2019年7月、沖縄県に出店し、すべての都道府県でチェーン展開するに至りました。1974年に1号店を開店してから45年。これからも、それぞれの地域でお客様に必要とされる「近くて便利」なお店であり続けるために、商品・サービスの質を追求していきます。



私たちを取り巻く 環境の変化

日本の社会は、働く女性や単身世帯の増加など、ライフスタイルが変化するとともに、少子高齢化が進み人口構造も大きく変わってきています。また、気候変動やプラスチックごみなどが及ぼす生態系への影響、食品ロスなど、環境に関する課題も重要度を増しています。

少子化・超高齢社会の到来

総人口に対する
65歳以上の比率

28.3%

日本における65歳以上の人口は年々増加し3,571万人^{*1}。総人口に対する比率が28.3%に増加する一方、15歳以下は12.1%と大きく減少しています。

^{*1} 総務省「人口推計」(2019年8月報)

働く女性・夫婦共働き世帯の増加

15～64歳の女性就業率

69.6%

働く女性、共働き世帯は年々増加しており、15～64歳の女性就業率は2018年で69.6%^{*2}。一方で、保育園の不足によって生じる待機児童の問題が深刻化しています。

^{*2} 総務省「労働力調査」2018年平均数値

食品ロスの問題

国内の食品ロスの総量

643万トン

世界には食べ物がなく苦しんでいる人が約8億人いると言われています。一方で、日本ではまだ食べられる食品が年間で約643万トン^{*3}(世界の食糧援助量の2倍)無駄にされています。

^{*3} 農林水産省 2016年度推計値

生態系への影響

日本人1人当たりの容器包装・
プラスチックごみの発生量

世界第2位^{*4}

プラスチックごみは海での波や紫外線などの影響を受け、微細なプラスチックの粒子(マイクロプラスチック)となり、食物連鎖を通じて多くの生物に取り込まれており、世界的な問題となっています。

^{*4} 国連環境計画(UNEP) 2018年報告書

